

時事新報

明治十八年五月廿一日
（西曆一千八百八十五年）
第九百七十四號
日曜日休刊

公報
東京圖書

○内務省通達第十六號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第十七號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第十八號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第十九號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第二十號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第二十一號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第二十二號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第二十三號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第二十四號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第二十五號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第二十六號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第二十七號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第二十八號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第二十九號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第三十號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第三十一號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第三十二號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第三十三號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第三十四號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第三十五號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第三十六號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第三十七號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第三十八號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○内務省通達第三十九號
官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事
一、官制官階法施行規則第六條ノ事

○今日ノ地位ニ達セタルナラン左レハ今我國ニ於テ男
女ノ風習ヲ改革シテ社會交際ノ一元素トシ
テ其職業ニ就テハ種々ノ方便アル其中ニ先
ツ戸外ノ職業ヲ與フルノ工夫ヲ爲スルヲ肝要ナラン
其職業ニ就テハ種々ノ方便アル其中ニ先
ツ戸外ノ職業ヲ與フルノ工夫ヲ爲スルヲ肝要ナラン
其職業ニ就テハ種々ノ方便アル其中ニ先
ツ戸外ノ職業ヲ與フルノ工夫ヲ爲スルヲ肝要ナラン

○露國君將ノ開誓 四月二十四日附にて在聖、彼得堡
ニヨリトクヘラド新聞の通信者其本社ニ寄せて
る通信曰く本日アレキサンドル帝は參謀部長オ
ツナーフ將軍ヲ引見シ同富汗境界の軍用地圖を披て四
時間計何カ頻りに討論する所ありたり將軍ハ戰爭を以
て到底避くる能はざるものぞなし神速の決断を以て
ラット及カザンヘーヤハ進軍するの機曾を失ふへら
サと主張せり帝ハ近來能く將軍の言を聽納せられ其
水魚の親をとり將軍は今年四月十二日にして頗る活潑
爲の氣象を富りり今朝面議の折帝は向て露國に取て
争となし其に今の時ありアムスタンは同富汗地方
と去りて今は何人ハ煽動する人なく且つ一旦開戦に至
れ心ハルヤ人ハ我れを助くるの密約あり然るも少し
少しにても猶豫する時は此等の好機は去りて又來り
申さずと言ひける帝は之を答へて將軍ハ勇は餘り性
急なり露國の天命は人力の得て勝つべきにあらざる
之類は避くべきの望みあるなり併しおがら事務如何
成行くと余は決してメンナーフ或はガルフヒカ
スと見捨てるは種々ありと云はれしと今日通信者
帝に請ひたるは露國の機やあれども少しも心配せ
ざる、所ある様に見受けられたりといふ

○羅馬法王の書 羅馬法王ハ本年二月一日付にて拉丁
文ハ新書ヲ清國皇帝ニ寄せ清國に在留する傳教士並
基督教民等に平時並に戰時於て特別の保護を加へら
るべき旨を決定したるなり云ふ

○盛所司令官事務取扱 盛所司令官の儀は追て
令官に於て該事務取扱
り乙第五十八號を以て
○寺僧の福運 去る頃
族數名華嚴頓府の或る
ンダーランド氏の説教
ありて之を赴かざりし
ド氏も亦右の寺院に
ダイラント氏ハ
得ざるを祝し夫ハ後
請ふもの引も切ら
二週間前の六個月間
云ひしと云ふ

○花の價百四十弗 花の價百四十弗
戚朋友其他より見舞と
費の或商會より先
に入れたるものと將軍
は百四十弗なりと云ふ
日々に類する品物と
るよし

○教導團歩兵移轉 今
教導團歩兵大隊を移轉せ
乙第五十九號を以て陸
○陸軍副病院 兵庫
開院の答なりと
○飾磨縣再置 兵庫
廢縣再置之事其節へ
きより今度姫路の有志
又仰がんと昨今協議中
○卒業證書授與 東京
伊藤定弘、愛知縣士族
一の三氏は其の科程と
卒業證書を授與した
族有川仁之助氏は就海
命せられたり

○古崎縣勸業會 同縣
に於て今度古崎縣勸業會
を組織せしに會頭には
一名職員に橋口善千
外二名に計には連座三
會員の數は特別會員
四百六十四名とて事務
設置したるよし

○歐洲市場の景況 倫敦
市場にて金銀の相場
あり要するに金銀相場
は如何なる商機とい
るやと探り得るものな
へも當然の姿なり實財
決して永久の貸借をな
公債の持主は餘り買買
市場に於て餘り其價と
る下格と引起さんふ
事と據よめたり併し

○山田司法卿 去る十八日石州濱田を發し豐州松江
に若したりと

○露國君將の開誓 四月二十四日附にて在聖、彼得堡
ニヨリトクヘラド新聞の通信者其本社ニ寄せて
る通信曰く本日アレキサンドル帝は參謀部長オ
ツナーフ將軍ヲ引見シ同富汗境界の軍用地圖を披て四
時間計何カ頻りに討論する所ありたり將軍ハ戰爭を以
て到底避くる能はざるものぞなし神速の決断を以て
ラット及カザンヘーヤハ進軍するの機曾を失ふへら
サと主張せり帝ハ近來能く將軍の言を聽納せられ其
水魚の親をとり將軍は今年四月十二日にして頗る活潑
爲の氣象を富りり今朝面議の折帝は向て露國に取て
争となし其に今の時ありアムスタンは同富汗地方
と去りて今は何人ハ煽動する人なく且つ一旦開戦に至
れ心ハルヤ人ハ我れを助くるの密約あり然るも少し
少しにても猶豫する時は此等の好機は去りて又來り
申さずと言ひける帝は之を答へて將軍ハ勇は餘り性
急なり露國の天命は人力の得て勝つべきにあらざる
之類は避くべきの望みあるなり併しおがら事務如何
成行くと余は決してメンナーフ或はガルフヒカ
スと見捨てるは種々ありと云はれしと今日通信者
帝に請ひたるは露國の機やあれども少しも心配せ
ざる、所ある様に見受けられたりといふ

○羅馬法王の書 羅馬法王ハ本年二月一日付にて拉丁
文ハ新書ヲ清國皇帝ニ寄せ清國に在留する傳教士並
基督教民等に平時並に戰時於て特別の保護を加へら
るべき旨を決定したるなり云ふ

○盛所司令官事務取扱 盛所司令官の儀は追て
令官に於て該事務取扱
り乙第五十八號を以て
○寺僧の福運 去る頃
族數名華嚴頓府の或る
ンダーランド氏の説教
ありて之を赴かざりし
ド氏も亦右の寺院に
ダイラント氏ハ
得ざるを祝し夫ハ後
請ふもの引も切ら
二週間前の六個月間
云ひしと云ふ

○花の價百四十弗 花の價百四十弗
戚朋友其他より見舞と
費の或商會より先
に入れたるものと將軍
は百四十弗なりと云ふ
日々に類する品物と
るよし

○教導團歩兵移轉 今
教導團歩兵大隊を移轉せ
乙第五十九號を以て陸
○陸軍副病院 兵庫
開院の答なりと
○飾磨縣再置 兵庫
廢縣再置之事其節へ
きより今度姫路の有志
又仰がんと昨今協議中
○卒業證書授與 東京
伊藤定弘、愛知縣士族
一の三氏は其の科程と
卒業證書を授與した
族有川仁之助氏は就海
命せられたり

○古崎縣勸業會 同縣
に於て今度古崎縣勸業會
を組織せしに會頭には
一名職員に橋口善千
外二名に計には連座三
會員の數は特別會員
四百六十四名とて事務
設置したるよし

○歐洲市場の景況 倫敦
市場にて金銀の相場
あり要するに金銀相場
は如何なる商機とい
るやと探り得るものな
へも當然の姿なり實財
決して永久の貸借をな
公債の持主は餘り買買
市場に於て餘り其價と
る下格と引起さんふ
事と據よめたり併し

賞勳敘任

明治十八年四月廿七日
大瀧野 伯爵 伯 爵 方 正 義
伊豆七島小笠原島ヲ除ク
明治十六年甲第三十六號布達部地方稅徵收規則第五
條第五條第十二條及同年甲第三十七號布達部地方稅
徵收規則第五條第十二條ノ年稅ハ明治十八年度ニ限
七月ヨリ十二月迄ノ分ハ八月末日迄一月ヨリ三月迄ノ
分ハ二月末日迄ニ納ムヘシ
右布達部
明治十八年五月廿日 東京府知事芳川正

○明治十八年五月十七日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

○明治十八年五月十九日
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大
元若 勳章 官 從 三位 勳 三等 侯爵 島 直 大

時事新報

○男尊女卑ノ風習破ラザル可ラズ
我輩ハ前報ノ紙面ニ於テ男尊女卑ノ今日ノ如ク卑劣ナ
リト三原因ヲ述ベ我輩女子ノ無職業ナルヲ以テ其原因
中ニ第一ニシテ職業ノ計算ハ決シテ當然ナルモノニ非
ズ古來國ノ文明ハ論ナク女子ノ地位ハ工部ノ國ニ等
シテ女子ノ地位ハ今日社會學ノ規定セザル事

ナレバ干戈工藝國其業ヲ異ニスレバ婦女ノ地位モ亦
隨テ其尊卑ヲ異ニスルハ畢竟干戈ノ事業タル女子ノ天
性ニ於テ耐テ可ラザルコト此點ニ至テハ常ニ男子
ノ勢力ニ依賴セザル可ラザルガ故ニ斯カル國柄ニテハ
婦女ノ世ノ男子ニ對シテ恰モ保護防禦ノ負債アルモ
ノ、如シ是ニ於テ價主タル男子ノ地位ハ益々尊貴アルモ
主タル婦女ノ地位ハ益々卑下アルモナリ得ズ然
ルニ工藝ノ熱練伎倆ハ婦女必ズモ男子ニ譲ラズ或ハ
一步ヲ譲ルコトアルモ與テ其間ニ周旋シ共ニ相扶掖ス
ルコト得ルガ故ニ女子必ズモ男子ノ勢力ニ依
ズ幾分カ其能ハ食ムノ傾キ生レ我ハ我ヲ、汝ハ汝
ヲ、一身獨立ノ計ニ至テハ新婦何ノ異ナル所
ランヤトテ婦女ノ品位自カラ貴重ナル可キナリ即チ
今日ノ處ニテ殖産商賈ノ盛ナル英米ニテ婦女ノ品格最
モ高ク武風尙存スル獨逸等ニテ女子ノ地位稍下ル所
ノモノハ職トシテ右ノ理由ニ原因スルコトナラン斯クテ
世ノ婦女等ガ相當ナル職業ヲ戶外ニ求メ職業社會ニ
於テモ一元素トシテ働クニ至テハ國民ノ一半俄ニ生産
力ヲ加ヘタルカ如ク國ノ理財上ニ取リテ幾分ノ好結果
ヲ生ゼザル得ズ或ハ婦女ノ身分ニ於テ事情職業ニ
從事スル能ハズ或ハ之ニ從事スルニ要セザル場合モ多
カル可シト雖モ身ニ相應リ手藝ヲ具ヘ居レバ自然不覺
テ取ルコト少ク又其手藝ヨリ發スル光彩ハ之ヲ試ミザル
間モ常ニ世ノ耳目ヲ射テ男子モ亦之ヲ輕ンズルニ由
ク婦女ノ品位ハ加速動ヲ以テ上進スルコト萬、疑ナカ
ル可シ

我輩我國ノ婦女ハ學校講堂ノ教育ナク社會交際ノ教
育モナク道理ヲ解セズ世事ヲ通セズ一家庭内ノ間ニ上
下シテ唯其内ノ細事ニ關心スルヲ常トシテレバ
世上ノ發達モ自カラ耳ニ達シ難ク又其發達ヲ感スルコ
ト不説教ニテ自然無責任ノ積習ヲ馴致シテ其甚ダ嘆
ス可キ事共ナレバ公ニモ私ニモ如何ニモシテ此積習ヲ
破ラザル可ラズ其方便トシテハ講堂ノ教育上ヨリ女子
ノ習見ヲ開クコトモ大切ナリ又貴婦人ノ部分ニテハ夜宴
ノ集會、高談舞踏ノ仲間入りヨリ彼ノ婦人總會ヲ試
ムルガ如ク就レモ殊勝ナルコトコト中等ノ婦女女子ニ
マアモ多少ノ好影響ヲ及ス可シ是亦甚ダ大切ナリト雖
モ差當リノ急務ニ云フ可キハ女子ノ職業ヲ授ケルノ方
法ヲ講スルコト即チ是ナリ抑モ歐米諸國ニテ大ニ婦女
ノ地位ヲ進メタルハ實ニ五六十年來ノ事ニテ當初之
ヲ進メントスルノ際ニハ誠ハ教育ヲ盛ニシテ女子ノ智
見ヲ開クコトヲ勉メタルモノアリ誠ハ道理上ヨリシテ女
子ノ同等視ス可シト論スルモノアリ或ハ神史小説ヲ著
シテ女權ノ増進ヲ促シタルモノモアリシト雖モ其實際
上ニ於テ大ニ女權ノ風習ヲ破リタル者ハ女子授業ノ學
校會社等ヲ設立セシコトナリ左レハ近代歐米女權ノ擴張
ノ來リ原因トシテ英米佛露等各國到ル處ニ女子商法
講習所、女子工業學校、女子醫學校ノ類ヲ増加シ又女子
教育會社ヲ稱スルモノニ至レバ圖書、電信、實業等ノ
學課ヲ教授シ各國ノ電信局郵便局等ニテ往々女子ヲ
雇僱スルコトアリ又匈牙利ニテ女子ハ女子ノ労働學
術ヲ教授シ居レリト云フ斯クテ歐米諸國ノ婦女ハ身
ト相應ナル職業ヲ得男子ト等シク糊口ノ資ニ任スル
コトヲ得タルガ故ニ其男子ニ對スルノ品格も漸ク上リ

○今日ノ地位ニ達セタルナラン左レハ今我國ニ於テ男
女ノ風習ヲ改革シテ社會交際ノ一元素トシ
テ其職業ニ就テハ種々ノ方便アル其中ニ先
ツ戸外ノ職業ヲ與フルノ工夫ヲ爲スルヲ肝要ナラン
其職業ニ就テハ種々ノ方便アル其中ニ先
ツ戸外ノ職業ヲ與フルノ工夫ヲ爲スルヲ肝要ナラン
其職業ニ就テハ種々ノ方便アル其中ニ先
ツ戸外ノ職業ヲ與フルノ工夫ヲ爲スルヲ肝要ナラン

○露國君將ノ開誓 四月二十四日附にて在聖、彼得堡
ニヨリトクヘラド新聞の通信者其本社ニ寄せて
る通信曰く本日アレキサンドル帝は參謀部長オ
ツナーフ將軍ヲ引見シ同富汗境界の軍用地圖を披て四
時間計何カ頻りに討論する所ありたり將軍ハ戰爭を以
て到底避くる能はざるものぞなし神速の決断を以て
ラット及カザンヘーヤハ進軍するの機曾を失ふへら
サと主張せり帝ハ近來能く將軍の言を聽納せられ其
水魚の親をとり將軍は今年四月十二日にして頗る活潑
爲の氣象を富りり今朝面議の折帝は向て露國に取て
争となし其に今の時ありアムスタンは同富汗地方
と去りて今は何人ハ煽動する人なく且つ一旦開戦に至
れ心ハルヤ人ハ我れを助くるの密約あり然るも少し
少しにても猶豫する時は此等の好機は去りて又來り
申さずと言ひける帝は之を答へて將軍ハ勇は餘り性
急なり露國の天命は人力の得て勝つべきにあらざる
之類は避くべきの望みあるなり併しおがら事務如何
成行くと余は決してメンナーフ或はガルフヒカ
スと見捨てるは種々ありと云はれしと今日通信者
帝に請ひたるは露國の機やあれども少しも心配せ
ざる、所ある様に見受けられたりといふ

○羅馬法王の書 羅馬法王ハ本年二月一日付にて拉丁
文ハ新書ヲ清國皇帝ニ寄せ清國に在留する傳教士並
基督教民等に平時並に戰時於て特別の保護を加へら
るべき旨を決定したるなり云ふ

○盛所司令官事務取扱 盛所司令官の儀は追て
令官に於て該事務取扱
り乙第五十八號を以て
○寺僧の福運 去る頃
族數名華嚴頓府の或る
ンダーランド氏の説教
ありて之を赴かざりし
ド氏も亦右の寺院に
ダイラント氏ハ
得ざるを祝し夫ハ後
請ふもの引も切ら
二週間前の六個月間
云ひしと云ふ

○花の價百四十弗 花の價百四十弗
戚朋友其他より見舞と
費の或商會より先
に入れたるものと將軍
は百四十弗なりと云ふ
日々に類する品物と
るよし

○教導團歩兵移轉 今
教導團歩兵大隊を移轉せ
乙第五十九號を以て陸
○陸軍副病院 兵庫
開院の答なりと
○飾磨縣再置 兵庫
廢縣再置之事其節へ
きより今度姫路の有志
又仰がんと昨今協議中
○卒業證書授與 東京
伊藤定弘、愛知縣士族
一の三氏は其の科程と
卒業證書を授與した
族有川仁之助氏は就海
命せられたり